

令和 8 年 2 月 16 日

各関係機関の長 殿

国立大学法人宇都宮大学農学部

農学部長 山根健治

【公印省略】

宇都宮大学農学部教員公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび宇都宮大学農学部では、下記の要領により教員（助教）を公募することになりました。
貴機関関係者にご周知方よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。

謹白

記

- | | |
|-----------|---|
| 1. 職名及び人員 | 助教 1 名 |
| 2. 専門分野 | スマート農業学／水稻生産科学分野 |
| 3. 仕事内容 | <p>①「スマート農林業の実践と課題」、「応用数学」、「気候変動へのレジリエンス」、「環境システム科学概論」及び「フィールド実践演習Ⅰ・Ⅱ」（学部専門科目）の分担</p> <p>②「食と生命のフィールド実践演習」（学部基盤教育科目）の分担</p> <p>③「スマート農林業」（分担）、「農業生産環境保全学特別演習」及び「農業生産環境保全学特別研究」（大学院博士前期課程）の担当</p> <p>④特別演習・特別研究などの担当（東京農工大学連合農学研究科・博士後期課程）</p> <p>⑤学部卒業論文、大学院修士論文及び博士論文の副指導または主指導</p> <p>⑥農業分野の ICT システム構築のため、未来農学共創センターの水稻生産を活用した実践的スマート農業学研究の推進。</p> <p>⑦未来農学共創センターにおける栽培計画立案や栽培指導、水稻分野の JGAP 認証事業、教育関係共同利用拠点事業、地域貢献事業の企画立案・運営。</p> <p>（変更の範囲）</p> <p>上記から、本学の大学教員の業務の範囲内で変更があります。</p> |
| 4. 勤務形態 | 常勤・任期 5 年 |
- 本公募では、テニユアトラック制による採用となります。宇都宮大学テ

ニュアトラック制に関する要項に基づき、テニュアトラック期間が満了する6月前までにテニュア付与の審査を行い、合格すればテニュアを付与します。テニュア審査は、中間評価及び最終評価により行います。

最終評価の結果、不合格となった場合は、テニュアトラック期間の満了をもって退職となります。

テニュアトラック期間に出産・育児・介護のライフイベントがあった場合には、休業期間に応じテニュアトラック期間を一定期間延長することができます。

その他待遇は国立大学法人宇都宮大学職員就業規則に従います。

5. 採用予定日

令和8年10月1日以降のなるべく早い時期

6. 応募資格

- ①博士の学位（外国において授与された方はこれに相当する学位を含む）を有するまたは取得する見込みの者。
- ②スマート農業学分野におけるICTやデータサイエンス等に関する基礎的素養と実践的技術、研究能力を有すること。
- ③水稻生産学分野における実践的知識や技術、指導能力を有すること。
- ④未来農学共創センターのフィールドを活用した教育研究に強い情熱を有すること。

7. 待遇

- ①給与等 国立大学法人宇都宮大学年俸制給与規程に定めるところによる

（参考）年俸（基本年俸、業績給及び地域手当）

修士課程修了者(24歳～)の場合 4,485,000円～

博士課程修了者(27歳～)の場合 5,252,000円～

※経験、職歴等により決定し、上記の外、要件を満たす場合に諸手当を支給

※上記は1月～12月までの1年間を勤務した場合の年俸額

- ②勤務形態 専門業務型裁量労働制を適用し、労働時間の算定はみなし労働時間（1日7時間45分）による
- ③休日 土・日、祝日、年末年始（12/29～1/3）、学長が指定した日
- ④休暇 年次有給休暇、特別休暇等
- ⑤社会保険等 文部科学省共済組合、雇用保険加入
- ⑥試用期間 無（テニュア付与審査を経て、テニュア取得が可能）
- ⑦雇用者 国立大学法人宇都宮大学
- ⑧勤務場所 宇都宮大学未来農学共創センター及び峰キャンパス

（変更の範囲）本学のすべての事業場（テレワークを行う場所を含む）

8. 応募書類

- ①履歴書（様式指定）※ 1部
- ②業績調書（様式指定）※ 1部
- ③教育・研究における抱負（様式指定）※ 1部

- ④これまでの研究内容の概要（A4判用紙に2,000字程度、様式自由）
- ⑤社会貢献に対する抱負（A4判用紙に1,000字程度、様式自由）
- ⑥応募者の研究・人物等について照会できる方(2名)の氏名・所属・連絡先
- ⑦主要な原著論文と学術著書10編以内（別刷りまたは学会等のWebサイトに掲載されたPDFをダウンロードして印刷したもの。学術著書ではコピー。オンラインによる提出の場合はPDFで可。）

※様式①～③は本学HP

(<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/saiyojyoho.php>) より
ダウンロードして下さい。

9. 応募締切日 令和8年5月29日（金） 必着

10. 応募書類の送付先 【オンラインによる提出の場合】

宇都宮大学農学部 大澤 和敏 宛

e-mail : osawa@a.utsunomiya-u.ac.jp

【郵送による提出の場合】

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部 大澤 和敏 宛

※封筒には「教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。

11. 選考方法

- ①一次審査として、提出された書類に基づく書類選考を行います。
- ②一次審査に合格した応募者に、面接による二次審査を実施し、採用候補者を決定します。二次審査の日程や内容等の詳細については、一次審査合格者に案内します。なお、面接を行う場合の旅費等は自己負担となりますので、ご了承ください。

12. 応募時に提出される個人情報等の取り扱いについて

- ①応募時に提出された書類の個人情報については、採否の検討および決定に限って使用します。
- ②応募書類（別刷りまたは学会等のWebサイトに掲載されたPDFをダウンロードして印刷したものを含む）は原則返却しませんので、あらかじめご了承ください。返却を希望される場合は、切手を添付した返送用の封筒を同封して下さい。

13. 特記事項

- ①農学部では令和8年度に改組することが決定しています。詳細については下記にお問い合わせください。
- ②本学は、男女共同参画社会基本法の趣旨に沿って、女性の積極的な応募を歓迎いたします。特に、本公募では、選考において業績評価が同等と認められる場合には、女性を優先して採用します。
- ③本学は子育て・仕事の両立支援策を推進しており、峰キャンパス内には社会福祉法人峰陽会が運営する「宇都宮大学まなびの森保育園」があります。（定員等により入園できない場合があります。）

- ④峰キャンパス及び陽東キャンパスのある宇都宮市は、共働き子育てしやすい街ランキング（日経 DUAL×日本経済新聞の自治体調査）で高い評価を受けています。
- ⑤教員研究室は未来農学共創センター（栃木県真岡市下籠谷 443）に所在します。
14. 受動喫煙防止 全キャンパス敷地内は全面禁煙となっております。
15. 関係規程等 (参考：国立大学法人宇都宮大学テニユアトラック制に関する要項)
- https://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame110000136.htm
- (参考：国立大学法人宇都宮大学テニユアトラック教員の評価及びテニユア審査に関する申合せ)
- https://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame110000137.htm
- (参考：国立大学法人宇都宮大学年俸制給与規程)
- https://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame110000036.htm
- (参考：国立大学法人宇都宮大学職員就業規則)
- https://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame110000026.htm
- (参考：宇都宮大学規程集トップページ)
- http://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/
16. 問い合わせ先 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
- 宇都宮大学農学部 大澤 和敏
- Tel : 028-649-5488 (ダイレクト)
- e-mail : osawa@a.utsunomiya-u.ac.jp

<付記>

本学部は、東京農工大学および茨城大学とともに後期のみの博士課程大学院（東京農工大学大学院連合農学研究科）を構成しており、採用後は連合農学研究科の指導教員資格審査を経て博士後期課程の教育研究の指導にも携わって頂くことになります。また、本公募のスマート農業／水稻生産科学分野は、本学の地域創生科学研究科工農総合科学専攻農業生産環境保全学プログラムを構成しており、地域創生科学研究科の代議員会を経て博士前期課程の教育研究の指導にも携わっていただくことになります。

宇都宮大学は地域の「地（知）の拠点」として地域社会から期待・信頼され、広く社会に貢献する開かれた大学として、「グローバル化社会への対応」、「イノベーション創出」、「活力ある持続可能な地域社会の形成」を目指して、教育・研究・社会貢献を推進しています。

農学部では、生命の営みを遺伝子レベルから個体レベル、集団レベルにおいて研究して、食料生産およびヒトが健康に生きるための食品や日用品の開発、地球上の生態系の保全にも貢献することを目指しています。